

4月報告書



常陸太田市地域おこし協力隊 梨栽培 武藤春香

行った主な活動

■ 施肥

春肥として魚肉骨粉や有機石灰などを使用した。桶を肩から下げて1樹ずつ樹の大きさに合わせて量を調節しながら撒いた。根が焼けるのを防ぐため、根元から30cmほど離して均一に撒いた。



■ 授粉

摘花、採薬^{*}、薬ふるい、開薬、精選という過程を経て授粉に必要な花粉を準備した。梨は同一系統の品種の花粉では受精しないため、品種の組み合わせに注意する必要がある。

果実の収穫時期をイメージして、必要な花だけに効率よく授粉した。



※ 薬（やく）…雄しべの先の、花粉が入った袋のこと

活動を行った感想など

肥料の撒き方や桶の重さにも慣れてきて、均一に速く撒けるようになった。施肥の時期や使用する肥料の種類を適切に選択できるようになりたい。

花粉を準備するために、採薬機や開薬機、精選機など高価な機械をそろえなければならず、手間も非常にかかるので、独立して一人でやっていくには様々な工夫が必要だと思った。ミツバチの利用や、自家結実性品種の導入、混植などを考えていきたい。